

## ◆特集 情報収集・活用術◆

## アナログとデジタルの調和

扇 和之

ある日のこと、いつものように日赤医療センターの図書室で雑誌を借りて、ライブラリアンの渡辺幸代さんに手渡したところ、雑誌と一緒に原稿依頼の言葉を頂きました。いつも大変、お世話になっている図書室からの御依頼とあっては断る訳がありません。後日、執筆の参考にと渡辺さんをお願いして見せて頂いたのが「日赤ライブラリアンニュース」と私との最初の出会いでした。第7回日赤図書室協議会研修会の特集(7巻2号)でしたが、一読させて頂きライブラリアンの方々の真摯かつ情熱あふれる御努力に少々“目から鱗が落ちる思い”がしました。院内 LAN を利用して、イントラネット上に図書室のホームページ (HP) を公開し、閉館時でも院内の任意のパソコンからネットで文献検索と図書室の雑誌所蔵の確認、図書室にない文献の複写依頼ができるという環境の構築<sup>1)</sup>、情報の選択→整理・統合→共有→活用→フィードバックといった“ナレッジマネジメント”の導入という発想<sup>2)</sup>、Electric Journal への積極的な取り組み<sup>3)</sup>などなど、ライブラリアンの方々にこれだけ真剣に取り組んで頂ければ、図書室を利用する我々としては利用者冥利に尽きるというものです。是非、今後の益々の御活躍を期待したいものです。

さて前置きが長くなりましたが、今回はその

ようなライブラリアンの皆様を対象に“私の情報活用術”なる原稿を執筆させて頂くことになりました。具体的には文献収集法や図書室利用法などをという御依頼ですが、まず文献収集法に関しては、私ども画像診断を専門にしているドクターにとっては、洋文献は Radiology 誌の RSNA index to imaging literature (以下 RSNA index) というのがバイブルともいえるべき基本 (gold standard) となります。Radiology 誌は北米放射線学会 (RSNA; Radiological Society of North America) の学会雑誌で、RSNA の会員および非会員でも Radiology 誌の有料の購読者には、この RSNA index の本が定期的に郵送されてきていました。1999 年からペーパー本という形式での RSNA index は廃止され、これが電子化されて RSNA の HP (<http://www.rsna.org/>) からのリンクで、どなたでもこの RSNA index の electric version (<http://rsnaindex.rsnaajnl.org/>) に無料でアクセスできるようになりました。小生の印象では、RSNA index を用いた方が PubMed 等で検索するよりも、画像診断という点では遥かに効率がいい印象があります。PubMed では同じようなキーワードを入力したとしても沢山の不要な文献がピックアップされてきて、逆に既知の文献がピックアップされなてこなかったりするのですが、RSNA index では本当に必要な文献だけが漏れなくピックアップされてきます。また PubMed etc.. の他の多くのサイトともリンクしており、それらのリンクによりアブストラクトも得ることができます。但しこ

OUGI Kazuyuki

日本赤十字社医療センター 放射線科

k-ohgi@mud.biglobe.ne.jp

の RSNA index の electric version を一般の人が利用するには一つだけ難点があります。それは文献検索する場合、Radiology 誌の方で予め定められたキーワードを入力する必要がある点で、自分で自分で考えたキーワードを入力してもヒットする率が低く、非常に効率が悪くなります。一つの打開策としては、Radiology 誌は多くの図書室で法人購読されていると思いますので、1998 年までに送られてきた RSNA index の本があるかと思えます。少々面倒ですが、まずはそれで自分の必要とするキーワードをチェックしてから web 上の RSNA index で検索するという方法です。ただしこの RSNA index は、あく迄“画像診断”の文献を検索する時にお勧めの方法であることを重ねて強調したいと思います。

さて次は私の図書室の利用法ですが、本や雑誌を借りる以外の目的としては、医療センターの図書室でもパソコンでの文献検索が可能ですので、まずはそのために利用します。それから次に利用する目的としてはジャーナルのチェックです。自分が所属している学会の雑誌は郵送されてきますので、それら以外の学術雑誌でどのような論文がでて、また商業雑誌ではどのような特集が組まれているのか—それらの定期的なチェックのため、ぶらりと図書室を訪れ、気の向くままに画像診断関係の雑誌を眺めて、面白いものがあれば文献や目次などをコピーして持ち帰ります。“ナレッジマネジメント”ではありませんが、一番重要なのはコピーをすること自体よりも、この時に得た情報を今後どううまく保存して活用するかであります。IT 革命が叫ばれている昨今、様々なものは電子化され、ジャーナルもエレクトリックジャーナルの時代に入ってきました。大変、結構なことあります。でも全てのものが“デジタル化”だけで片付くのでしょうか？“アナログ”はいらないのでしょうか？文献検索は確かにコンピュータで“デジタル”で(electric に)行います。でもそ

の入力をするのは、キーワードは何にしようかな、そう考えるのは人間という“アナログ”です。電子化により得た情報を最終的に活用するのも人間というアナログです。真の“ナレッジマネジメント”はデジタルとアナログとの理想的な調和にあるのではないのでしょうか。“雑誌のあの文献”というのは電子化された文献検索で可能です。でも“うちの大学の同門会ニュースにあの先生が書いていたあの記事”だとか“あの時、抄読会で使ったあのプリント”というのは一般に electric には探し出すことは出来ません。日頃、どれだけまめに整理して必要な時に取りだせるようにしているかにかかっているといえます。“私の情報活用術”で最も大切なことの一つは、手持ちの情報を必要な時にすぐに取りだせるかどうか、ということにあるかと思えます。手持ちの文献コピーや資料というのは、沢山持っていれば持っているよりは安心かも知れませんが、でも持っている以上に大切なことは、それらを必要な時にいかにタイムリーに取りだせるかということです。その収納し取り出す手段の一つが電子化というデジタルであり、文献コピーや資料といったペーパー形式のものでは、個人の収納ノウハウの感性というアナログであったりします。

最後に HP の活用について述べます。国内外で種々の学会や主要な病院の診療科が HP を開設していて、それらを活用できるのは勿論ですが、それ以外にも私の知人で日本のトップで活躍しつつ、自分の HP をまめに作って公開しているドクターも何人かいます。彼らの HP にアクセスすると、画像診断に関する知見や情報について彼らの“感性”という最も大事なアナログを“HP”というデジタルを通じて垣間みることが出来ます。また私の専門としている磁気共鳴画像 (MRI) では、MRI の原理や臨床応用に関する知識のみならず、どういう新しい MRI 装置が開発されて、どういうソフトを搭載しているかという知識も非常に大切です。これらの

情報はカタログでも入手は可能ですが、リアルタイム (as fast as possible) な手段とはいえ、また日本国内で入手可能なパンフレットでは、厚生省の薬事承認をおりた国内発売中の MRI 装置の情報しか得られません。そこで登場するのが各メーカーが公開している HP です。これらにアクセスすると、特に GE、シーメンス、フィリップスといった外資系のメーカーでは、海外でしか発売されていない装置やソフトの情報をリアルタイムで入手することが可能です。

“情報活用術”と一口にいても、その手法は人により、また情報の種類により様々かと思えます。各人が自分にあった方法で情報を収集していけばよいのだと思います。しかし電子化された情報というのはいろんな意味で便利です。電子化を軽視するのではなく、しかし一方では

盲目的に電子化に振り回されるのではなく、“うまく利用”しながら自分の感性というアナログも大切にしていけば良いのではないかと思います。“アナログとデジタルの調和”は 21 世紀のキーワードといえるかもしれません。

#### 参考文献

- 1) 尾崎那知子：図書室業務の機械化・電子化とこれからの図書室. 日赤ライブラリアンニュース 2000 ; 7(2) : 3-7.
- 2) 豊田恭子：ナレッジ・マネジメントとは何か. 日赤ライブラリアンニュース 2000 ; 7(2) : 8-11.
- 3) 渡辺幸代：With Electric Journal で困った経験. 日赤ライブラリアンニュース 2000 ; 7(2) : 20-23.